研究成果報告書 科学研究費助成事業



今和 5 年 6 月 1 9 日現在

機関番号: 37125

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2017~2022

課題番号: 17K12204

研究課題名(和文)自己イメージに焦点を当てた支援プログラムが中堅前期看護師の看護実践力に及ぼす影響

研究課題名(英文)The effect of a support program focusing on self-image on nursing practice skills of early mid-career nurses

研究代表者

鶴田 明美 (TSURUTA, AKEMI)

聖マリア学院大学・看護学部・教授

研究者番号:10341976

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2.500,000円

研究成果の概要(和文): 臨床経験3年以上20歳代の中堅前期看護師(以下、中堅前期看護師)は、患者・家族との関係困難を抱え、それには否定的な自己イメージが影響している。他者との対話と並行して自己実践を熟考する内省は、自己分析力と洞察力を高め自己イメージの変化と看護実践力の向上をもたらす。そこで、患者・家族との関係場面について同年代のグループで看護実践の見つめ直しを行うプログラムを作成し、実施した。その結果、本プログラムは、自己イメージの肯定的変化と看護実践力を向上させる効果が期待できることが明らかになった。反面、自己内省の促進、自己評価力の向上が自己イメージと看護実践力の低下に繋がる可能性が 示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義 本プログラムは、グループメンバーが相互にメンターとして機能し、個人が肯定的なフィードバックを得られる ことにより、自己省察が促進され、自己課題の明確化が図られる。その結果、中堅前期看護師の自己イメージの 肯定的変容、看護実践力の向上が期待できる。したがって、本プログラムは中堅前期看護師の離職率の低下や看 護実践力向上に向けた支援に大きく貢献できる。

研究成果の概要(英文):Early mid-career nurses with more than three years of clinical experience and in their twenties (hereafter referred to as early mid-career nurses) have difficulty in relationships with patients and their families, and this is influenced by negative self-image. Introspection, which contemplates self-practice in parallel with dialogue with others, enhances self-analysis and insight, changes self-image, and improves nursing practice. Therefore, we created and implemented a program to review nursing practice in a group of the same age regarding the relationship between patients and their families.
As a result, it became clear that this program can be expected to have the effect of positively

changing self-image and improving nursing practice skills. On the other hand, it was suggested that promotion of self-reflection and improvement of self-evaluation ability may lead to deterioration of self-image and nursing practice ability.

研究分野:看護学

キーワード: 中堅前期看護師 自己イメージ 支援プログラム 看護実践力

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1。研究開始当初の背景

医療現場の先進化・複雑化に伴い、専門性を基盤とした質の高い看護を提供できる看護師の確保は、将来にわたり看護の質を保証する上での重要課題である。その上で、中堅前期看護師は次世代を担う重要な人的資源といえる。しかし、役割負荷や家庭との両立困難から離職の可能性が高い世代である。

臨床経験3年以上20歳代の中堅前期看護師は、役割や責任範囲の拡大による過負荷、仕事と家庭との両立困難による心身疲労が蓄積しやすく、離職願望が生じる可能性が高い。看護師の離職願望は自尊感情の低下が始点となり、自尊感情の基盤には自己イメージがあると言われる1)。肯定的自尊感情の向上や否定的自尊感情の改善には自己イメージへの介入が有効であり2)、自己肯定感は学びや生きることへの原動力を生み出す3)。自己の実践を熟考する内省は、自己に対する分析力を高め、自己イメージの変化をもたらす。

これらをふまえ、自己と向き合い自己イメージの肯定的変容を促すための方法として、中堅前期看護師と患者・家族との関係の場面に焦点を当て、同年代のグループによる対話を通して看護実践の見つめ直しを行うプログラムを作成し、実施した。そして、予備実験として中規模病院の中堅前期看護師を対象に作成した介入プログラムを実施した。その結果、参加者に肯定的な自己イメージや自尊感情の高まりをもたらし、離職願望を消失させる効果があること、さらに、自己の課題の明確化や仕事への前向きな取り組みをもたらす効果があることが分かった。

2。研究の目的

中堅前期看護師の自己イメージに焦点を当てた看護実践の見つめ直しプログラムの、自己イメージの肯定的変容と看護実践力への影響について検証すること。

3。研究の方法

A施設の中堅前期看護師 11 名を対象に、Gibbs(1988)のリフレクティブジャーナルを用い、1 グループ 5~6名、毎月 1回 60分 1事例、全 10回のプログラムを作成し、実施した。プログラム参加による自己イメージと看護実践力の変化を確認するため、参加前後に無記名自記式質問紙調査を実施し、プログラム全 10回終了後に看護実践の変化について構造化面接を行った。質問紙調査の調査項目は、基本属性、自己イメージの測定は中堅前期看護職者の自己イメージ評価表 16項目、看護実践力の測定は看護師の問題解決行動自己評価尺度 45項目で構成した。参加前後の得点比較は Wilcoxon の符号付順位検定を SPSS で行い有意水準は 5%とした。面接データは逐語録を作成し、語り前後の意味内容を捉えながらインビボコード化した。分析過程では研究者間で検討を重ね、分析結果は参加者確認により真実性・信憑性を確保した。倫理的配慮は、所属機関及び研究対象施設の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

4。研究成果

プログラム参加者は、平均年齢 27.2 ± 2.4 歳、平均臨床経験年数 5.0 ± 1.6 年であった。

(1) プログラム参加前後の自己イメージ得点と看護実践力得点の比較(表1)

参加前後の全体の得点比較では、自己イメージ、看護実践力共に有意差は無かった。個別の 得点推移では、参加後に得点が上昇した割合は、自己イメージ 72.7%、看護実践力 45.5%、両 方 36.4%であった。参加後に得点が低下した割合は、自己イメージ 28.3%、看護実践力 54.5%、両方 18.0%であった。

個別の得点推移から、参加後自己イメージと看護実践力共に上昇していた反面、両方共に低下したことも示された。両方共に上昇したのは、仲間が相互にメンターとして機能し肯定的フィードバックを得られたことや仲間の体験知を活用できたためと考えられた。両方共に低下したのは、内省により自己の否定的側面に気づいたり、多角的視点の獲得により客観的評価力が向上し、自己評価が適正、厳密化したためと推察された。

	自己イメ ージ		看護	実践力
	前	後	前	後
中央値(範囲)	44(25-59)	49(36-68)	163(118-194)	163(120-204)
参加者				
А	39	49	155	163
В	42	58	178	171
С	46	44	135	183
D	25	38	163	175
Е	52	59	184	160
F	44	37	161	158
G	33	38	150	140
Н	38	68	194	204
ı	59	61	185	149
J	44	36	191	182
K	46	49	118	120
有意確率	. (91	. 8	324

自己イメージ得点、看護実践力得点の前後比較: WI coxonの符号付順位検定(有意水準5%)

前:プログラム参加前の得点 後:プログラム参加後の得点

(2) プログラム参加前後のインビボコードと語りの内容(表2、3)

参加前の看護実践について抽出されたインビボコードは 12 コードであり「急性期は患者と接する期間が短いため機会を逃さず思いを聴き援助する」「周囲から評価され任された事は自分で考え行動できる」「不測の事態には上手く対応できない」「配置転換で新たな技術や知識の習得に追われ流されてしまう」等であった。参加後は 12 コードであり「他職種と連携し患者の希望を叶えている」「できない事や知らない事を同僚に相談し協力を求める」「仕事で気になった事は自問し他者に確認する」「後輩看護師に自分から声をかけ共に考える」「仲間の実践に触れ力不足を感じ自信が揺らいだ」等であった。

参加前は、患者の思いの把握に尽力し、周囲の評価を得て自信を持ち看護を実践している一方で、不測の事態や未体験・未習得の事象では適切に対処できないことが示された。参加後は、自分の力量不足や疑問に対処しながら他職種と連携し看護を発展的に展開し、後輩看護師に自ら歩み寄り課題解決を図る状況が示されていた。他方、仲間の実践が自信低下の要因になっていることも示された。これらの変化には、"仲間に解ってもらえ嬉しかった""仲間の意見は新鮮で刺激的、実践が広がった"等、仲間による相互理解と相互刺激が発展的、協働的な実践に影響している一方で、"仲間は凄い、自分は仲間のようにできていない"と、仲間の実践が自己の実践への過小評価に影響していることが述べられていた。

(3) プログラムが自己イメージと看護実践力に及ぼす影響と今後の展望

これまでの看護実践力向上のための支援は、看護技術講習や看護過程演習など集団を対象にした知識・技術の強化に係る内容が多い中、本研究の独創性は、中堅前期看護師への支援の評価として、自己イメージに着眼した点と、同年代のグループによる対話を通したプログラムを実施することにより自己イメージの肯定的変容と看護実践力向上への効果を明らかにする点であった。本プログラムは、仲間が相互にメンターとして機能し、個人が肯定的なフィードバックを得られることにより自己内省が促進され、自己の課題の明確化が図られると考えられた。

研究の結果、研究当初の推測通り、中堅前期看護師の自己イメージの肯定的変化と看護実践力を向上させる効果が期待できることが明らかにされた。反面、プログラム参加による自己内省の促進及び自己評価力の向上が自己イメージと看護実践力の低下に繋がる可能性が示唆された。今回はプログラム参加直後の結果をプログラム参加前と比較しプログラムの効果検証を行った。今後は、プログラム参加による自己イメージと看護実践力への影響について、プログラム参加後3カ月、6か月等経時的変化についての追究及び個別支援体制の構築を目指す予定である。

	表 2 プログラム参加前のインビボコード		
関係の	プログラム参加前のインビボコード	プログラム参加前の参加者の語りの内容	
	急性期は患者と接する期間が短いため機会を逃さず思いを聴き援助	急性期は短い時間で関わるので患者の一瞬を逃さず早めに関わっている	
報告の報告でいきられまでは、	する	気になる患者には、機会を逃さす出向いて話を聞いている	
表の事態には上すくおちてきない。 特別は最後のもかかっている。 内が私にものかららない。 知識したことがないことはすてく不安		自分に任せてもらえ、自分で考えてやって、評価してもらい自信につながっていた	
日本の業務の対象を対するくれてもでは10 のの業務の中で不変が大きく「これで111のかった機力な11中でやっていた 関係は自分より意義のスタッフが多く不安をそがりを載せられない 中させた。最初の言語が入りである。「ある、これでは多くがあった。」とは他もたちった。ととださの思り知意報(どっただけだった 本権とおいたは少ってにまったとこのがあり、現場の報題をおかれたのかってでは立った。 満来が対象を伝えたいのようとことのがあり、現場の報題をおかれたのかかででいなかった 満来が対象を伝えたいのようとことのがあり、現場の報題を表われてものかかででいなかった 満来が対象を伝えたいのようとことの必要が満まった。「他で来ます。という感じで対していた 素素が対象を伝えたいのようとことの必要が満まっている。「他で来ます。という感じで対けないとがである。 素素が対象を伝えたいのようとことの必要が満まっている。「他で来ます。という感じで対けないとがある 素さら感じいるというとこのとのとが多く、最も心思りの人とことが多れる。 まさら思考があるのいの人とことのとのとができませる場合のようによいかのからが・デー人でもあらとしていた。 まさら思考があるのいのようとこのとのとができませる場合のようによりないっとがある。 まさらや意味のがあるとこのとができませる。「あるのいの人とことのとながが、「おきのいちという時間ないという時に、どのようなが、「からしましている」 まだされるとのととないがあるとこのとのとはおいのかからが多が「一人でもあらとしている。 まだら表が、ととが力を表がしまるというとはいいのかからが多がしている。 まるを考えのがあるとこががある。まがしているというがある。まがしているというがあるというがある。まがしているというがあるとこのできまないらが見ないと思い、以えられた仕事かきあんとかってでを まるからのとことががあるからいいものがいるというがあると、ないのなからいと、ころな自分はいてもいなくでものいちを表がしたがいる。 まるのとことががあるとことがある。できないいろがものかった。ころな自分はいでもいることがものいまないというがある。このまとうしようかと思っていいた まるが経過期からないとはあるがいる。まがしているというがある。まがしているというがあるというがあるというがあるというがあるというがあるというがあるというがあるというがあるというがあるというがあるといきがあるというがあるといいがあるというがあるというがあるというがあるというがあるというがあるというがあるというがあるというがあるというがあるというがあるというがあるというないるといいがあるというないるといいがあるというないるといいがあるというないるといいがあるというないるといいがあるというないるといいがあるというないるといいがあるというないるといいがあるというないるといいがあるというないるといいがあるといいがあるといいがあるといいがあるといいがあるといいがあるといいがあるといいがあるといいがないるといいがあるといいがあるといいないるといいがあるといいがあるといいがあるといいがあるといいがあるといいがあるといいがあるといいがあるといいがあるといいがあるといいがあるといいがあるといいがあるといいがあるといいがあるといいがないるといいがないるといいがあるといいがあるといいがないるといいがないるといいがないるといいがないるといいがないるといいがないるといいがないるといいがないるといいがないるといいないないないるとい	周囲から評価され任された事は自分で考え行動できる	患者に関心を寄せ、一緒に考えたりできるのは自分の強み	
報知日からで表示の表示を表示していまった。		急性期は患者の命がかかっている、何が起こるか分からない、経験したことがないことはすごく不安	
************************************	不測の事態には上手く対応できない	今の業務の中で不安が大きく「これでいいのか」と聞けない中でやっていた	
表の影響を表していませましましましましましましましましましましましましましましましましましましま		病機は自分より後輩のスタッフが多く不安なそぶりを見せられない	
超過程		ただ単にその日を過ごしたり、時間を過ごすだけで淡々と終わってしまっていた	
	患者の思いを受け流し一日か流れた業になっている	流れ作業みたいになってしまったところがあり、個別の看護を言われてもなかなかできていなかった	
		患者が何かを伝えたいのだろうと思っても、「後で来ます」という感じで受け流していた	
	配置転換で新たな技術や知識の習得に追われ流されてしまう	病棟が異動になり毎日慌ただしく、覚えることが多く患者と関わる中でスルーしてしまうことがある	
関わずに、ただ課題とどうしたらよいかと思わらいに自分の中で思っているが、書り得えていないことがあった 書もや事族の心思りに係み認み込めない自分がいる 書もや事族の心思とないに自分がいた 書がたまれたに事まえきちんとできれば難い おがたことだけをやっていれば何も苦われないと思い、与えられた仕事はきちんとやってきた 日分のことだけで乗したし満足していた これまて疑疑書書な先輩のかででもれてやってきた 「作用で大体のことできるという前提で異態になったが、できない自分しなかった。こんな自分はいでもいなくても同じだと思っていた 小児科の機能しかなく、成人は全然分かっていない、そこが一番自信なかった。 「特性でありからまされ、 原体を受ける場合であり、参考に対していない。 そのようなよれ、 実施に与よく指明できず先輩にバトンタッチしていた 「特殊を発したばがりのことは、患者がもうずく危を引き収えらわられないという理解に立ち合った特、実施に与よく指明できず先輩にバトンタッチしていた 多名程度経験があるのでできても記念が、 者様に対してこれでいいのか、この先とうしようかと思っていた ある程度経験があるのでできても記念が、 者様に対してこれでいいのか、この先とうしようかと思っていた まると程度経験があるのでできても記念が、 者様に対してこれでいいのか、この先とうしようかと思っていた まると程度経験があるのでできても記念が、 者様に対してこれでいいのか、この先とうしようかと思っていた まると程度を終めるものできても記念が、 者様に対してこれでいいのか、この先とうしようかと思っていた まると表が多からのには確認れない 日のたけまると述が、 までに書まで関係の書きに耐えられない 上的か事報をおわたり思くためといはが、までに書きて関係の書きに耐えられない 上的か事報をおしたりまいたましていた。 日のたけまるとが多く、全然とのだなと思うことがあった 人からの評価を実にしずきる自分がいた 書きないことが多く、全然とのだなと思うことがあった しからの評価を実にしずぎる自分がいた 書きないことが多く、全然とのだなと思うことがあった しからの評価を実にしずぎる自分がいた 書きないことが多く、全然とのだなと思うことがあった しからの評価を実にしずぎる自分がいた またから記念されたと思い。 このは自分にとっては大きな思 助けてはいいである。自分の考えもあっているのが、正しい行動なのかと不足になり、言い出せなかった		患者と患者の周りの人たちとの希望が違っているとき,患者の周りの人にどう情報提供したらよいのか分からず一人でもんもんとしていた。	
### 1		患者が自宅に帰りたいと思っていても、実際は家族のサポートが難しいため帰れないという時に、どのようなサポートが難しいと思ってるのかという具体的なことは 聞かずに、ただ漠然とどうしたらよいかと足器みしてた	
### おから別の表えを「治う」ことが大きな悪になっている ### おから見ると、「全人が大きな悪になっている ### おから別の表えを「治う」ことが大きな悪になっている ### おから別の表えを「おう」ことが大きな悪になっている ### おから別の表えを「おう」ことが大きな悪になっている ### おから別の表えを「おう」ことが大きな悪になっている ### おから別の表えを「おう」ことが大きな悪になっている ### おから別の表えを「おう」ことが大きな悪になっている ### おから別の表えを「おう」ことが大きな悪になっている ### おから別の表えを「おう」と称に表えない。 ### おから別の表えを「おう」とが知られまないる。 ### おから別の表えを「おう」とが知られまない。 ### おから別の表えを「おからのでは、悪えない」(注)、ことは自分にとっては大きな悪 ### おから別の考えを「おう」ことが大きな悪となっているのが、正しい行動なのかと不安になり、言い出生なかった ### おから見いまないまないまないまえない。「第3」ことは自分ととっては大きな悪 ### おから見いまないまないまないまるない。「第3」ことは自分ととっては大きな悪 ### おから見いまないまないまないまえない。「第3」ことは自分ととっては大きな悪 ### おから見いまないまないまないまえない。「第3」ことは自分ととっては大きな悪 ### おから見いまないまないまないまえない。「第3」ことは自分ととっては大きな悪 ### おから見いまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまない	患者や家族への関わりに悩み踏み込めない自分がいる		
書われたととだけをやっていれば何も言われないと思い、 知えられた仕事はきちんとやってきた		患者や家族の顔色を窺い、踏み込めない自分がいた	
### 1976 **		告知を受けた患者やその家族とどう関わればいいのかかなり悩んでいた	
		言われたことだけをやっていれば何も言われないと思い、与えられた仕事はきちんとやってきた	
# 日で大体のことできるという前提で異動になったが、できない自分しかなかった。こんな自分はいてもいなくても同じだと思っていた 小児科の緩験しかなく、成人は全然分かっていない。そこが一番合信なかった 病律を異動したばかりのときは、患者がもうすぐ思を引き取るかも知ないという場面に立ち合った時、家族にうまく説明できず先輩にパトンタッチしていた	自分に与えられた仕事さえきちんとできれば善い	自分のことだけで善しとし満足していた	
お売れの前種でできない自分はいてもいなくても同じ		これまで経験豊富な先輩の中で守られてやってきた	
病機を異動したばかりのときは、患者がもうすぐ息を引き取るかも知れないという場面に立ち合った時、家族につまく説明できず先輩にバトンタッチしていた 病院でのやりづらさがあり、患者に接するというよりも、どう生きていこうかと思っていた 患者や周囲の人に「優しいね」と言われていたが、自分はイライラやモヤモヤもたくさん抱えながらやってきていた ある程度経験があるのでできて当然だが、看護に対してこれでいいのか、この先どうしようかと思っていた フラストレーションがあり看護師じゃなくていいかなと思っていた 豊者や家族のためには頑張れるが病院のためには頑張れるが病院のためには頑張れるけど、病院のためには頑張れない 自分に対する関待の高さはありがたいが、すごく重荷で期待の重さに耐えられない 上司から招請されたり忍られたりしても流していた ロマ不安で、自信がなくびくびくしながらやっている。疲弊していく自分がいた 推論されることが多く、全然だめだなと思うことがあった 人からの評価を気にしすぎる自分がいた ・ 豊者から怒りをぶつけられることが多く、辛くて疲弊していた ・ でさいことばかりで看護所は続けたくないと思っていた 自分の考えがあっても立ち止まってしまい言えない、「言う」ことは自分にとっては大きな壁 助けてほしいって思っていても、言っていいのかな、自分の考えはあっているのか、正しい行動なのかと不安になり、言い出せなかった		5年目で大体のことできるという前提で異動になったが、できない自分しかなかった、こんな自分はいてもいなくても同じだと思っていた	
開放でのやりづらさがあり、患者に指するというよりも、どう生きていこうかと思っていた 参名や周囲の人に「優しいね」と言われていたが、自分はイライラやモヤモヤもたくさん抱えながらやってきていた 参名程度緩験があるのでできて当然だが、看護に対してこれでいいのか、この先どうしようかと思っていた 思者や家族のためには頑張れるが病院のためには頑張れない 日分に対する期待の高さはありがたいが、すごく重荷で期待の重さに耐えられない 上司から指摘されたり怒られたりしても流していた 日々不安で、自信がなくびくびくしながらやっている。 差罪していく自分がいた 指摘されることが多く、全然だめだなと思うことがあった 人からの評価を気にしすぎる自分がいた ・密者から怒りをぶつけられることが多く、辛くて疲弊していた ・密者から怒りをぶつけられることが多く、キくて疲弊していた ・密者から怒りをぶつけられることが多く、キくて疲弊していた ・ できないことばかりで看護師は続けたくないと思っていた ・ 日分の考えがあっても立ち止まってしまい言えない、「言う」ことは自分にとっては大きな理 ・ 助けてほしいって思っていても、言っていいのかな、自分の考えはあっているのか、正しい行動なのかと不安になり、言い出せなかった	異動先の病棟でできない自分はいてもいなくても同じ	小児科の経験しかなく、成人は全然分かっていない、そこが一番自信なかった	
型名や用圏の人に「優しいね」と言われていたが、自分はイライラやモヤモヤもたくさん抱えながらやってきていた ある程度経験があるのでできて当然だが、看護に対してこれでいいのか、この先どうしようかと思っていた の		病棟を異動したばかりのときは、患者がもうすぐ息を引き取るかも知れないという場面に立ち合った時、家族にうまく説明できず先輩にパトンタッチしていた	
ある程度経験があるのでできて当然だが、看護に対してこれでいいのか、この先どうしようかと思っていた グラストレーションがあり看護師じゃなくていいかなと思っていた 患者や家族のためには頑張れるが病院のためには頑張れるけど、病院のためには頑張れない 自分に対する期待の高さはありがたいが、すごく重荷で期待の重さに耐えられない 上司から指摘されたり怒られたりしても流していた 日々不安で、自信がなくびくびくしながらやっている、疲弊していく自分がいた 指摘されることが多く、全然だめだなと思うことがあった 人からの評価を気にしすぎる自分がいた 患者から怒りをぶつけられることが多く、辛くて疲弊していた できないことはかりで看護師は続けたくないと思っていた 自分の考えを「言う」ことが大きな壁になっている 助けてほしいって思っていても、言っていいのかな、自分の考えはあっているのか、正しい行動なのかと不安になり、言い出せなかった		病院でのやりづらさがあり,患者に接するというよりも、どう生きていこうかと思っていた	
思者や家族のためには頑張れるが病院のためには頑張れない 出者や家族のためには頑張れるけど、病院のためには頑張れない 自分に対する期待の高さはありがたいが、すごく重荷で期待の重さに耐えられない 上司から指摘されたり怒られたりしても流していた 日々不安で、自信がなくびくびくしながらやっている、健弊していく自分がいた 指摘されることが多く、全然だめだなと思うことがあった 人からの評価を気にしずぎる自分がいた 患者から怒りをぶつけられることが多く、辛くて破弊していた できないことばかりで看護師は続けたくないと思っていた 自分の考えを「言う」ことが大きな壁になっている 助けてほしいって思っていても、言っていいのかな、自分の考えばあっているのか、正しい行動なのかと不安になり、言い出せなかった	自分の看護はこれでいいのかこの先どうしようかと思う	患者や周囲の人に「優しいね」と言われていたが、自分はイライラやモヤモヤもたくさん抱えながらやってきていた	
 患者や家族のためには頑張れるが病院のためには頑張れなける場所をいたいが、すごく重荷で期待の重さに耐えられない 自分に対する期待の高さはありがたいが、すごく重荷で期待の重さに耐えられない 上司から指摘されたり怒られたりしても流していた 日々不安で、自信がなくびくびくしながらやっている、提挙していく自分がいた 指摘されることが多く、全然だめだなと思うことがあった 人からの評価を気にしすぎる自分がいた 患者から怒りをぶつけられることが多く、辛くて疲弊していた できないことばかりで看護師は続けたくないと思っていた 自分の考えを「言う」ことが大きな壁になっている 助けてぼしいって思っていても、言っていいのかな、自分の考えはあっているのか、正しい行動なのかと不安になり、言い出せなかった 		ある程度経験があるのでできて当然だが、看護に対してこれでいいのか、この先どうしようかと思っていた	
自分に対する影待の高さはありがたいが、すごく重荷で期待の重さに耐えられない 上司から指摘されたり思られたりしても洗していた 日々不安で、自信がなくびくびくしながらやっている、疲弊していく自分がいた 指摘されることが多く、全然だめだなと思うことがあった 人からの評価を気にしすぎる自分がいた 患者から怒りをぶつけられることが多く、辛くて疲弊していた できないことばかりで看護師は続けたくないと思っていた 自分の考えを「言う」ことが大きな壁になっている 助けてぼしいって思っていても、言っていいのかな、自分の考えはあっているのか、正しい行動なのかと不安になり、言い出せなかった		フラストレーションがあり看護師じゃなくていいかなと思っていた	
自分に対する期待の高さはありがたいが、すごく重荷で期待の重さに耐えられない 上司から指摘されたり怒られたりしても流していた 日々不安で、自信がなくびくびくしながらやっている。後弊していく自分がいた 指摘されることが多く、全然だめだなと思うことがあった 人からの評価を気にしすぎる自分がいた 患者から怒りをぶつけられることが多く、辛くて疲弊していた できないことばかりで看護師は続けたくないと思っていた 自分の考えを「言う」ことが大きな壁になっている 助けてほしいって思っていても、言っていいのかな、自分の考えはあっているのか、正しい行動なのかと不安になり、言い出せなかった		患者や家族のためには頑張れるけど、病院のためには頑張れない	
日々不安で、自信がなくびくびくしながらやっている。彼弊していく自分がいた 指摘されることが多く、全然だめだなと思うことがあった 人からの評価を気にしすぎる自分がいた 患者から怒りをぶつけられることが多く、辛くて疲弊していた できないことばかりで看護師は続けたくないと思っていた 自分の考えを「言う」ことが大きな壁になっている 助けてほしいって思っていても、言っていいのかな、自分の考えばあっているのか、正しい行動なのかと不安になり、言い出せなかった	患者や家族のためには頑張れるか病院のためには頑張れない	自分に対する期待の高さはありがたいが、すごく重荷で期待の重さに耐えられない	
指摘されることが多く、全然だめだなと思うことがあった		上司から指摘されたり怒られたりしても流していた	
大からの評価を気にしすぎる自分がいた 番者から怒りをぶつけられることが多く、辛くて疲弊していた できないことばかりで看護師は続けたくないと思っていた 自分の考えを「言う」ことが大きな壁になっている 助けてほしいって思っていても、言っていいのかな、自分の考えはあっているのか、正しい行動なのかと不安になり、言い出せなかった		日々不安で、自信がなくびくびくしながらやっている、疲弊していく自分がいた	
5 人からの計解を示にしまざる自分がいた 生者から怒りをぶつけられることが多く、辛くて疲弊していた できないことばかりで看護師は続けたくないと思っていた 自分の考えがあっても立ち止まってしまい言えない、「言う」ことは自分にとっては大きな壁 助けてほしいって思っていても、言っていいのかな、自分の考えはあっているのか、正しい行動なのかと不安になり、言い出せなかった		指摘されることが多く、全然だめだなと思うことがあった	
できないことばかりで看護師は続けたくないと思っていた 自分の考えがあっても立ち止まってしまい言えない、「言う」ことは自分にとっては大きな壁 助けてほしいって思っていても、言っていいのかな、自分の考えはあっているのか、正しい行動なのかと不安になり、言い出せなかった	できないことばかりで自信がなく日々不安で疲弊していく自分がい る	人からの評価を気にしすぎる自分がいた	
自分の考えを「言う」ことが大きな壁になっている 助けてほしいって思っていても、言っていいのかな、自分の考えはあっているのか、正しい行動なのかと不安になり、言い出せなかった		患者から怒りをぶつけられることが多く、辛くて疲弊していた	
自分の考えを「言う」ことが大きな壁になっている 助けてほしいって思っていても、言っていいのかな、自分の考えはあっているのか、正しい行動なのかと不安になり、言い出せなかった		できないことばかりで看護師は続けたくないと思っていた	
		自分の考えがあっても立ち止まってしまい言えない、「言う」ことは自分にとっては大きな壁	
人に何かを言ったり、説明したりするのが怖かった	自分の考えを「言う」ことが大きな壁になっている	助けてほしいって思っていても、言っていいのかな、自分の考えはあっているのか、正しい行動なのかと不安になり、言い出せなかった	
		人に何かを言ったり、説明したりするのが怖かった	

表3 ブログラム参加後のインビボコードと語りの内容 ブログラム参加後のインビボコード	プログラム参加後の参加者の語りの内容
	患者への関わりが自分だけでは難しい時、先輩にまず相談し、薬剤師にも相談し、いつもと違う方法で実践できた
	患者と周りの人の意向を自分の力ですり合わせてあげたいと思っても自分一人では力不足の時は、チームの同僚や患者を支えてきたケアマネジャーなど、多職種に相
他職種と連携し患者の希望を叶えている	談するようになった 患者に「家に伸りたい」と気持ちを打ち明けられた時「これ、私、今行動するしかない」と思いすぐに主治医に伝え、看護師長に相談しソーシャルワーカーにも声を かけカンファレンスを聞いた
	外来の業務が分かり、だから病棟がきちんと引き継がないといけないと思い、外来と病棟をつなげることができた
	明日どうなるか分からない状況にある患者や家族と面と向かって関わることが増え、今行動することが大事なんだ、患者と家族のその一日の質が大事だと思うようになった
	自分が得た情報は、自分がいなくてもチームで看護が焼くよう記録に残している
	踏み込まないと進まないと思い、関ける、関こうとしている
	人が思っていることを自己判断していたが、相手がどう思っているか聞くようになった
	患者の思いに踏み込んで聞き患者の気持ちに触れ反応が変化したとき、看護している実感、自分がいる意味を感じた
	患者が怒りをぶつけてきた時、患者は日々の不安の中で生きていてどうしようもなくなり怒りをぶつけているのだと考えるようになり「 が不安だったんですよね」「あなたは、こういう思いだったですか」と言葉にして聞くことができ、看護実践で変われたところ
患者と向き合い患者の思いに踏み込んで傾聴する	忙しくても患者に向き合う時間を心掛けている
	「ちょっと待てよ、患者の訴えはどうだったかな」と自分に投げかけることができるようになった
	患者の思いを確認し真を捉えることが大事、患者の中にしか答えはないと改めて思った
	患者の思いを傾聴する、「お手伝いできることはありませんか」の一直を言っている
	「この患者は病気をどう捉えてるんだろう」と考え、患者に聞いて記録に残すということを意識して行動している
	イライラする患者、理不尽な患者と話すときは、冷静とまではいかないが、あまり熱くならないような考え方、接し方を心掛けている
患者の状況を一歩引いて考え一呼吸置いてか声をかける	患者の気持ちに深入りしてしまうことが多かったが、患者の周りの人たちはどう思ってるのだろうと、一歩引いて考えるようになった
	人院が長くなりそうな患者は、日々の中で注意に注意を重ね、一呼吸置いてから声をかけるようにした
	患者や家族のために、最低限のことは伝えるようになった
	患者が本当に高いたいことやうまく言えないことを代弁している
	自分から言っていかないといけないと仲間から学び、自分でも逃げたくないと思い、自分の言葉で患者の家族に状況を説明できるようになった
患者や家族のために自分の考えを自分の言葉で説明する	人には人の、自分には自分の価値があると思い、自分の思いは声に出して言うようにした
	自分の病機での役割を考えたとき、「自分の考えていることを発信したい」という意欲が出てきた
	おじけづかなくても、聞いてくれる人は聞いてくれる、言っったほうが患者のためになる、自分のためになる、言おうと思えば言えるんだと思った
できない事や知らない事を同僚に相談し協力を求める	頼ってもいいんだ、助けてほしいと素直に言った方がタイムリーに動けると思い、援助を求めるようになった
	引っ掛かったことは絶対に他の人に確認したり聞くようにしている
仕事で気になった事は自問し他者に確認する	まずは「自分はこうしようと思うが、どうですか」と周囲に確認してから行動している
	場面を大きく見てみたらどうだろう、客観視して見てみようと思うことが増えた
	自分から後輩に一声かけるようにしたら周りから相談を受けるようになった
後輩看護師に自分から声をかけ共に考える	後輩のことやブラスアルファを考えた上で、自らやっていかなければと思う
	自分の不安を後輩にも見せていい、後輩に相談したっていい、そうすれば後輩は自分たちが頑張らないといけないという気持ちになってくれると思う
	仲間は自分よりもシビアな場面に遭遇していてすごい、自分は仲間みたいにやれていない
仲間の実践に触れ力不足を感じ自信が揺らいだ	今まで積み重ねてきたことは しかないという中で、自信を持って仕事ができるっていうことが本当に少ない
	仲間には肯定的に言ってもらえたが、もやもやして納得いかない、ボジティブに捉えられない
	自分が深めたいと思った部分を認めてあげられるのは自分しかいないと思った
自分が深めたい看護をするために一区切りつける	今まで我慢していた気持ちや考えが整理でき、別のところで一区切りしたほうがいいと思うようになった
	うまくできなかった時はその原因をきちんと考えて、患者が望む形を叶えたいのでもっと頑張らないといけないと思う
	急性限で機切ている人たちは同じ経験年数でも、自分とはちがう、自分の考えを持ってやっていかなければと思い始めた
	自信がなく自分のことは駄目だ。ナースに向かないと思っていたが、プログラムに参加して「あ、自分にもできることがあるんだ」と気づき少しずつ頑張っている
	自分にできることをすればいい、自分にもできることはたくさんある、頑張っていけると思った
自分でいい自分にできることはたくさんあると思い頑張っている	自分のプラスの面に目を向けていかないといけないなと思った
	日カルノフスの面に日を向けていかないといけないなと思うた 中間の事例に共感することが多く「ああ、同じような悩みを持ってるんだ」と思い、自分を頼りにしてくれる患者もいるので看護師を続けていこうと決めた
	患者と家族にとって大事なところは、大事にしていこうと思ってやっている、それが今のモチベーションになっている
	自分もいていいんだ、自分を認めてもらえることが大きい、自分の存在価値を感じた
	高齢者の生活に関われるようなところで続けていきたい、将来は管理よりも教育ができたらいいと思う
看護師としての将来の夢ができた	経験を組んで、将来は緩和ケアで働きたいという夢ができた
	若手のスタップは辛いことがあると辞めたくなると思うので、将来はブラスに変えられるような役割に立ちたい
	ここに届て、自分が変えられることは変えていきたい
	仕事はきついが、踏み込むことでやりがいにつながる、やっていかなければいけない、エンジンがかかった
	仲間の意見は新しかった、自分の中に落とし込め、次の試みへの意欲につながった
仲間の新たな意見で視野が広がり次の試みにつながっている	仲間の意見が聞けて、視野が広がった
	自分を認めてもらえ、きちんと看護できていると思えて帰しかった
	仲間の患者との関わりが、今の病棟での仕事に生かせている

<引用文献>

- 1) 小塩真司(2001): 自己愛傾向が自己像の不安定性, 自尊感情のレベルおよび変動性に及ぼす影響, 性格心理学研究, 10(1), 35-44.
- 2) 原田宗忠(2008): 青年期における自尊感情の揺れと自己概念との関係,教育心理学研究, 56,330-340.
- 3) 佐々木英和(1999):第4章「自己肯定力」を育む教育の原理と可能性,人間の本質と自己実現,人間主義心理学会編,58-86,川島書店,東京.

5		主な発表論文等
J	•	エタル双門人寸

〔雑誌論文〕 計0件

〔 学 全 発 表 〕	計2件	(うち招待護演	0件/うち国際学会	0件)
しナムルバノ		しつつコロ可叫/宍	01丁/ ノン国际士云	

1	沯	٤ŧ	耒	者	名

鶴田明美、前田ひとみ

2 . 発表標題

自己イメージに焦点を当てた支援プログラムが中堅前期看護師の看護実践に及ぼす影響

3 . 学会等名

第39回日本看護科学学会学術集会

4.発表年

2019年

1.発表者名

鶴田明美、前田ひとみ

2 . 発表標題

自己イメージに焦点を当てた支援プログラム参加による中堅前期看護師の自己イメージと看護実践力の変化

3 . 学会等名

第42回日本看護科学学会学術集会

4.発表年

2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

_

6 研究組織

_ 0	听九船					
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考			
	前田 ひとみ	熊本大学・大学院生命科学研究部(保)・教授				
研究分担者	(MAEDA HITOMI)					
	(90183607)	(17401)				

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------